

おいしい出雲いちじくのブランド化を目指します

産地実践構想その3 (出雲いちじく産地協議会)

出雲市のいちじくは、県内出荷量の75%を占め、販売単価は全国でトップクラスとなっています。

特に中心産地である多伎町では、古くから「潮風に育まれた食味の良いいちじく」産地として評価が高く、加工品も広くPRされてから飛躍的に消費拡大が進みました。しかし一方では、生産量の伸び悩みや後継者の育成が緊急の課題となっています。

このたび「Aいずもいちじく部会」では「出雲いちじく産地実践構想」を策定し「出雲いちじく」のブランド化の早期確立をめざして、県単独補助事業「たち上がる産地育成支援事業」を導入しました。



主な構想の内容は以下のとおりです。

【生産】

生産基盤を強化するため、生産性の高い団地の造成により新植を効率よく進めます。

「いちじく入門講座」を開講し、新規就農者や後継者を育成します。

減農薬・減肥料栽培を進め「島根県エコロジー農産物認証いちじく」の栽培に取り組みます。

【加工】

栽培農家の女性で組織された「NPO法人レディースfig」と連携して新商品を開発します。

東京の高級百貨店向けに好評を得ている生果を使ったジャムをシリーズ化します。



【流通・販売】

ザ・キング、榎井ドーフィン、蓬萊柿という品種構成で7月から11月までの長期販売をします。

大都市圏へのカタログショッピング及び通信販売を開始し、限定販売による全国発送を行います。

長距離輸送に対応した包装形態の見直しや、お得意様量販店との契約出荷に取り組み、全国最大の消費地である東京での知名度を高めます。